

事例①

知床世界遺産地域における合意形成

エゾシカ保護管理計画に見られる予防原則：知床世界遺産地域では、核心地域、緩衝地域、隣接地域を設け、核心地域では人の手を加えずに自然の推移にゆだねることを管理の原則としています。しかし、すでに登録地内外にシカの越冬地(図2.5.1)を拠点にシカが大発生し、自然植生への食害は深刻です。増え過ぎたシカは地元斜里町で推進している100m²運動という森林再生の取り組みの最大の障害となっています。他方、知床半島のエゾシカは明治時代にいったん絶滅し、1970年代に再分布したと考えられており、過去においても増減を繰り返していたことがわかっています。また、隣接地域におけるシカによる農林業被害も深刻です。

科学委員会では、現在のエゾシカの自然植生への影響について、二つの意見が出ました。一つは、自然に放置すると過去には見られなかったようなシカによる植生への不可逆的な悪影響が避けられず、早急な対応が必要であるという意見です。もう一つは、現在見られている植生への影響は過去

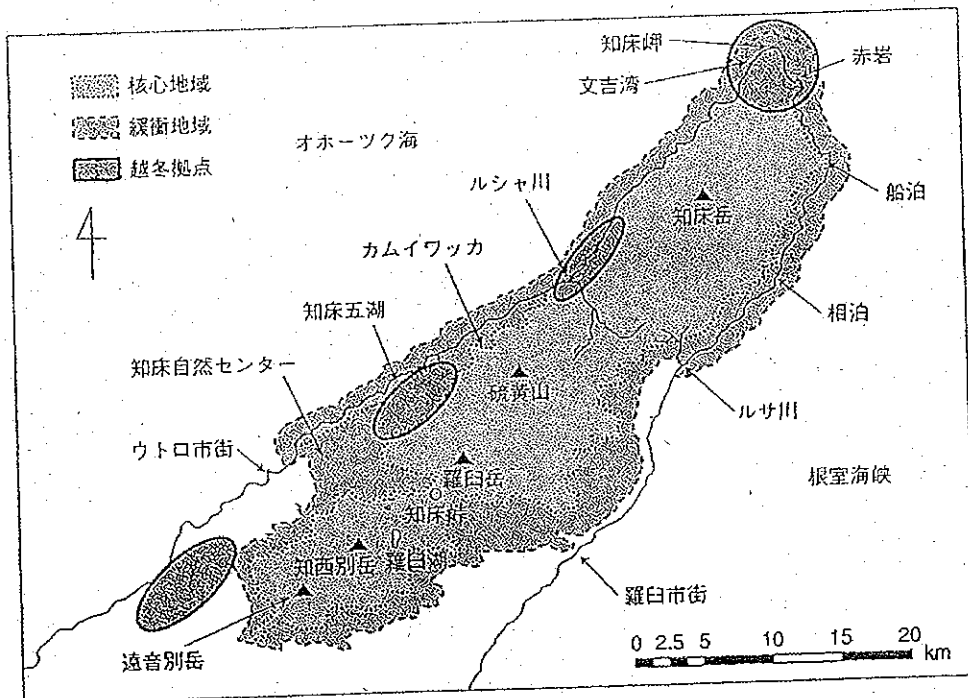


図2.5.1 知床世界遺産登録地域(核心地域と緩衝地域。登録海域は距岸3kmに拡大された)とエゾシカの主な四つの越冬拠点

にも生じたことがあり、生態系過程に含まれることから、注意深くモニタリングしていく必要があるという意見です。

現時点でどちらが正しいかは不明ですが、予防原則の立場から暫定的に前者の仮説を採用するこ

とになりました。もしも不可逆的な影響ではないことがわかれば、捕獲を中止することになります。逆に後者の仮説を採用すると、本当に不可逆的な影響があるとわかった場合には、取り返しがつかないことになります。取り返しのつかない過ちの

漁業者の意識変化



知床の世界遺産推進地の海域拡大方針などを示した羅臼漁協での説明会—16日

知床「海域拡大」了承へ

知床の世界遺産登録は18日、関係三漁協が推進地域の拡大方針に同意する見込みで、大倉町で開かれた。時限

疑問の種「規制なき」

には漁業に対する専門家の不安を解消し、漁業者の意識の変化があるが、規制なき新たな漁業規制を行わない海域拡大の实效性に対して、一部は不信感も残る。ここに至るまでの経緯を振り返る。

(知床取材班)



図2.5.2 知床世界遺産での登録海域拡大を巡る科学者と漁業者との対話を報じる新聞記事(北海道新聞2005年3月19日付)

「漁業規制を行わない海域拡大なんて、何の意図があるんですか？」
網走管内網走町ウトロの町長三浦剛嗣さん(左)は強い疑問を感じた。

こうした不信感に対し、知床世界自然遺産推進委員会(委員長 石原謙吉)は「規制なき」海域拡大をめぐり、専門家と漁業者の対話を重ねてきた。

「河のかんのさう、推進されてはいいけど、規制を押しつけてくるんじゃないのか」と、方角が、漁業者を不安にさせた。

「資源を増やすための漁獲が、規制なき海域拡大は多くの関係者の不安を招いた」と、漁業者の代表者は話した。

資源増へ保護も必要

「資源を増やすための漁獲が、規制なき海域拡大は多くの関係者の不安を招いた」と、漁業者の代表者は話した。

専門家が議論を主導

「資源を増やすための漁獲が、規制なき海域拡大は多くの関係者の不安を招いた」と、漁業者の代表者は話した。

ほうを避けることが、知床世界遺産地域で採用された予防原則です。

同時に、どちらの仮説が正しいかを過去の花粉量分析により調べています。過去数千年以上の堆積層から年代別の花粉量を調べ、今より花粉が減った時代があったかどうかを調べています。エゾシカが大発生していれば、植物が減り、花粉量が減ったはずですが、まだ、調査が不十分ですが、ある地域では現在が最も花粉量が少ないらしいという結果が得られています。

知床海域管理計画における二項対立の回避：知床海域管理計画では、その地域の特徴的な自然を守ることに持続可能な漁業の両立を図るという目的が掲げられようとしています。もし後者がなければ、将来トドと漁業の軋轢が深刻になった場合、トドの保護のみが優先される事態になるかもしれません。トドか漁業かという二項対立に陥ると、将来トドのために漁業を否定されるのではないかと漁業者が疑心暗鬼に陥り、管理計画は合意できなくなるでしょう。複数掲げた目的が両立できなくなる事態が将来も絶対に来ないとは限りませんが、目的に併記しておけば、二者択一は将来改めて問題にすればよいことです。両立できる見込みがあるうちから、不毛な二項対立に陥る必要はありません。

漁業者との信頼関係の構築：知床の漁業者は、世界遺産登録申請時に、新たな漁業規制が加わることを心配していました。そのため、世界遺産のために新たな規制をかけないことを行政側が約束したそうです。国際自然保護連合（IUCN）は登録に際し、登録海域を距岸1kmから拡大するように求めてきました。これに漁業者が反発しましたが、行政側は新たな規制はないという返答に終始し、漁業者は登録海域を拡大する理由がないと警戒感を強めました。そこで、科学委員会が直接漁協と「腹を割って」話し合う機会を設けました。その際に、ある専門家が、「永遠に漁業規制がないなんて、そんなことはあり得ない」（ただし、今後規制する際には、あくまで漁協と話し合い、同意を得たうえで行う）と漁協幹部に語りかけた

ことで、漁業者の意識が変化したと報じられました（図2.5.2）。その後、科学委員会海域作業部会には経済学者も特別委員に加え、自然保護と持続可能な漁業の両立を図る管理計画づくりを進めています。（松田裕之）

松田の知床海域関係の業績など（牧野さん、桜井さん主著のものを除く）

- [E47] 日本生態学会編(2010)『自然再生ハンドブック』（地人書館）pp.48-50（添付資料）
- [A88] Matsuda H, Makino M, Sakurai Y (2009) Development of adaptive marine ecosystem management and co-management plan in Shiretoko World Natural Heritage Site. *Biol Cons* 142:1937-1942
- [A93] Matsuda H, Makino M, Tomiyama M, Gelcich S, Castilla JC (2010) Fishery management in Japan. *Ecol Res* 25:899-907（5 ページ目に知床沿岸漁業の紹介）
- [B28] Matsuda H (in press) 3-6 Risk and resource management. Mitsuru Osaki, A. Braimoh, K. Nakagami, O. Saito (eds) "Designing Our Future from Local and Regional perspectives - Bioproduction, Ecosystems & Humanity", United Nations University, pp.267-281 §3-6-3 に知床共同管理の紹介
- [F78]* Matsuda H, Makino M, Castilla JC, Oikawa H, Sakurai Y, Tomiyama M: Marine protected areas in Japanese fisheries: case studies in Kyoto, Shiretoko and Mikawa, International Symposium on Integrated Coastal Management For Marine Biodiversity in Asia, 14 January 2010, Kyoto Teressa, Kyoto, Japan
- [F67]* Matsuda H: Development of adaptive marine ecosystem management and co-management plan in Shiretoko World Natural Heritage Site, International Workshop for Networking Biodiversity Observation Activities in Asia Pacific Region, 22 July 2009, Noyori Memorial Hall, Nagoya Univ, Nagoya, Japan
- [F59]* Matsuda H, Makino M, Sakurai Y: Development of marine management plan in the World Natural Heritage, Shiretoko, Japan, MCBI Seminar, 5 August 2008, Marine Conservation Biology Institute, Bellevue, WA, USA
- [F57]* Matsuda H: Development of adaptive ecosystem management and co-management plan in a marine world natural heritage, Shiretoko, Japan-Russia Scientific Meeting for Okhotsk Sea Ecosystem Conservation, 21 May 2008, Mita Conference Hall, Tokyo
- [F54]* Matsuda H, Makino M, Sakurai Y: Development of adaptive ecosystem management and co-management plan in a marine world natural heritage, Shiretoko, , 1 December 2007, Pew Marine Conservation Fellowship 2007 Annual Meeting, San Luis Obispo
- [D154] 松田裕之 (2006) 魚と漁業を守るための知床海域管理計画とは. 月刊海洋. 38:661-665.
- [D143] 松田裕之 (2005) 知床世界遺産登録：その自然を守るための三つの課題. バイオニクス. 8(9):16-17.
- [G231] 知床世界遺産海域管理計画と地域環境学ネットワーク：横浜国大COE成果報告会，横浜国大，2011年3月16日
- [G] 知床世界遺産の海域管理計画における漁業の評価：日本生態学会大会，札幌 2010年3月10日
- [G155] 知床の海域生態系管理と CoML への取り組み：JAMSTEC—横浜国大合同ミニシンポジウム「海洋生物の多様性と海洋生物のセンサス (CoML)の役割」，新杉田，2008年10月22日
- [G134] 知床-世界自然遺産登録をめぐる人と自然の関係—漁業とシカー—：公開講座「ユネスコ世界遺産をめざす地域社会の課題と展望」，鎌倉女子大学 二階堂学舎，2007年10月23日
- [G126] 知床世界遺産海域管理計画とこれからの日本の環境・水産行政：北海道大学サステナビリティガバナンスプログラム，北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟，2007年6月12日
- [G115] 世界遺産の保護のあり方について：オホーツク実学市民公開講座「知床-世界自然遺産登録と環境共生—地域活性化 の課題を展望して—」，東京農大綱走，2006年9月23日
- [G103] 魚と漁業を守るための知床海域管理計画とは：北大水産学部・水産海洋学会「第37回北洋研究シンポジウム知床世界自然遺産：氷縁生態系の保護管理と持続的漁業」，函館，2006年3月6日
- [G91] 知床の海域管理：世界遺産への新たな課題：Ship & Ocean 財団 第27回海洋フォーラム，東京都港区虎ノ門 海洋船舶ビル10F ホール，2005年6月27日
- [K21] 中川大介(2006)環境と漁業、共存の道は 知床テーマに報告 函館で北洋研究シンポ.北海道新聞道南版 2006年3月7日(G103 シンポジウムの報道)